

平成 29 年度 技術情報第 1 号
チャ ヒサカキワタフキコナジラミ

平成 29 年 7 月 4 日
静岡県病虫害防除所長

県内の茶園で発生が確認されたヒサカキワタフキコナジラミについて

1 発生経過及び状況

平成 29 年 3 月に、県東部の茶園の裾葉に、白色綿状の分泌物を伴った種不明のコナジラミ類の寄生が確認された。茶園から採集した幼虫を、茶業研究センターを通じて国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 果樹茶業研究部門（金谷茶業研究拠点）に同定依頼したところ、同年 4 月にコナジラミ類の専門家である石原産業株式会社の上宮健吉博士により、本種はヒサカキワタフキコナジラミであると同定された。

改めて発生状況を調査した結果、平成 29 年 6 月現在、県内の複数の茶園（裾部下葉）で確認されている。また、1 茶園において、摘採面で成虫 1 頭の発生を確認した。

表 1 調査茶園におけるヒサカキワタフキコナジラミの発生状況

| 調査地域 | 西部 | 中部 | 東部 | 中山間地 |
|----------|----|----|----|------|
| 調査茶園数 | 10 | 20 | 10 | 10 |
| うち、発生茶園数 | 1 | 0 | 7 | 1 |

注：調査は、平成 29 年 6 月に実施した。

2 国内での発生状況

チャでの寄生は、平成 27 年 10 月に埼玉県で初めて確認された。埼玉県の報告では、茶株内の枝条における発生状況調査で発生率 87%（60 カ所中 52 カ所）とされている。茶園における生息場所は、地面に近い葉に限られているため、茶生産における被害は報告されていない。本種は、ヒサカキ及びチャに寄生する。

3 形態及び生態

成虫の体長は約 1.0mm、体色は白色である（図 1）。幼虫は小判状で淡黄緑色をしており、周囲に長い糸状の白色綿状物質をもつ（図 2）。終齢幼虫の体長は成虫とほぼ同じである。成虫は裾部下葉の新芽や新葉に生息するほか、大量の卵を裾葉の葉裏に産む。幼虫は裾葉の葉裏に生息して白い綿状の分泌物を出し、葉裏を覆うようになる。

成虫、幼虫ともに、裾葉などの直射日光が当たらない部位を好んで発生する。

4 昆虫を確認した場合の対応

遮光を伴う栽培では摘採面にも発生する可能性があるが、チャ生産への実害は生じないことが推察されるため、本虫を対象とした防除は必要ないと考えられる。



図1 成虫



図2 幼虫

問い合わせ先：静岡県病虫害防除所（TEL：0538-36-1543）

病虫害防除所 HP（URL）：

<http://www.agri-exp.pref.shizuoka.jp/boujo/boujo.html>

病虫害防除基準 HP（URL）：<http://www.s-boujo.jp/>